２０．≪火山爆発と元寇≫

１２５７年、インドネシアのロンボク島にあるサマラス山が、超巨大爆発を起こします。火山灰は、南極や北半球のグリーンランドまで降り、その規模は過去３７００年間で一番大きいものでした。火山灰は、世界各地で天候不順を引き起こしたと考えられます。

日本においても災害が頻発。その状況を危惧した日蓮（注）は、１２６０年（文応元）、「立正安国論」を著し、北条時頼（ときより：注）に奏上。その著作で、外国からの侵略が起こると書いていました。

一方、強大なモンゴル帝国は分割され、１２７１年、中国において元王朝が建国。そして、元は、日蓮の予言どおり、１２７４年（文永１１）に日本へ攻めてきます。なおこの年、一遍（いっぺん：注）は、“踊り念仏”をしながら全国行脚に出ます。

１２７９年（弘安２）、北条時宗（ときむね：注）は、無学祖元（注）を中国から招きます。祖元は、元の再攻撃に備えるよう時宗に進言。そして翌１２８１年（弘安４）、再び元が日本に攻めてきたのです。

１２８２年（弘安５）、時宗（ときむね）は、元寇での戦没者追悼のため円覚寺を創建。そして同年、日蓮は、武蔵国池上（大田区池上）で没します。また、一遍は１２８９年（正応２）に没します。

注：主要な当時の人物の生没年と概要

北条時頼　　1227－1263 年　鎌倉幕府第５代執権、1260 年は、北条氏の得宗（族長）だった

北条時宗　　1251－1284 年　鎌倉幕府第８代執権

蘭渓道隆　　1213－1278 年　臨済宗の僧

なお、日本の臨済宗の開祖は、栄西（生没年 1141－1215 年）

無学祖元　　1226－1286 年　臨済宗の僧

日蓮　　1222－1282 年　日蓮宗の宗祖

一遍　　1239－1289 年　時宗（じしゅう）の宗祖

真教　　1237－1319 年　一遍の弟子で、時宗の開祖

追１：源頼朝は、祖父に縁の深い八幡宮を鶴岡八幡宮として立派に改修移築し、また父義朝を弔うため中国から禅僧・蘭渓道隆（注１）を招いて建長寺を建立しました。

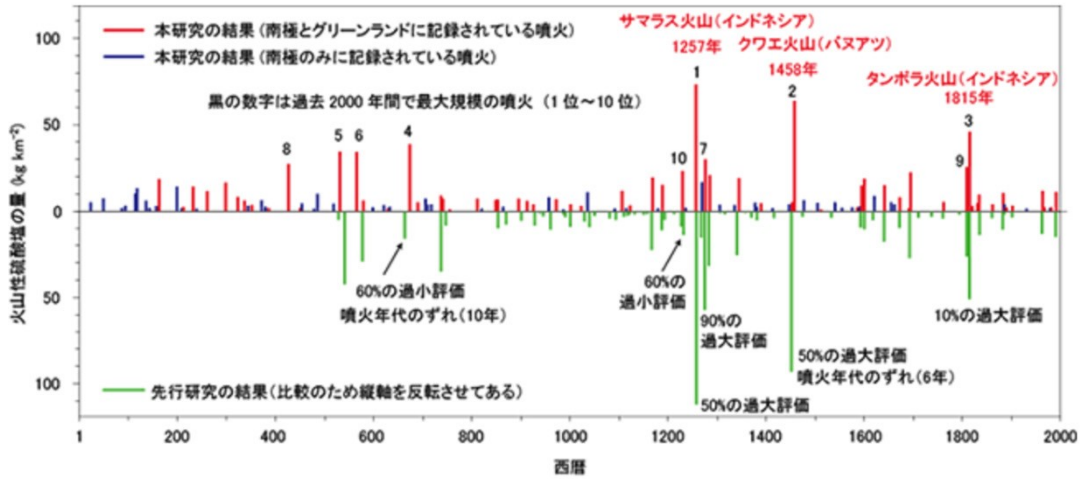
追２：サラマス火山爆発の前年に、武蔵国に、称名寺が建立され、そこに金沢文庫が造られます。

追３：一遍が始めた「踊り念仏」は盆踊りの原型です。1280 年には、東北から武蔵国石浜（台東区浅草）に到着し、それから鎌倉に行きます。当時、円覚寺が建設中であり、鎌倉に入れませんでしたが、近くの藤沢市で念仏を行いました。その場所が、時宗の総本山清浄光寺となっています。

追４：一遍の教えを継いだ真教（注１）が、１３０５年（嘉元３）、将門塚を修復供養しています。首塚の石碑に刻まれている「南無阿弥陀仏」は、真教の自筆を拓本して彫られたもの。

写真は、①南極とグリーンランドの氷に記録された火山爆発の歴史（(独)理化学研究所 2014 発表)、②一編上人が鎌倉に入ろうとして武士に止められた絵（一遍聖絵第５第５段）

①



アイスコア中の火山性硫酸塩の量の比較

②